

C コミュニティ（オンライン）15:00～

持続可能なコミュニティをコーディネートする

～コミュニティの意義を再考する～

対話へのお誘い

毎年のように起こる自然災害、そのたびにコミュニティの重要性がクローズアップされます。今年の元旦に発生した能登半島地震では、地域の人のつながりで救われた命もたくさんあったと聞きました。このように災害時のコミュニティの必要性はだれにも認識されていることでしょう。コロナ禍であっても、つながりを保つためにみんなで工夫し、コミュニティを持続させてきていました。

このように、人間が安心して学び、働き、充実した人生を送るためには、人が人を育てる安全で安定したコミュニティが必要なことは多くの人が認めるところです。

しかし、普段私たちが積極的にコミュニティに関わるかと言えば、必ずしもそうではありません。今、私たちの身近にあるコミュニティは、私たちや地域の方々にとって、どんな意義をもつのでしょうか？改めて考えてみましょう。

これまでの経緯

Zone C はこれまで「持続可能なコミュニティをコーディネートする」をテーマに様々な実践を聞きつつ語り合ってきました。人口減少や都市化などの急激な変化の下、公民館や地域のまちづくり協議会などがリーダーとなって行っている地域活性化の活動や、担い手不足や高齢化などに対応するため外部の方や若者を取り込んだ活動、地域と連携した小中学校へのキャリア教育など、様々な実践を通して新たなコミュニティのあり方を模索してきました。また、そのような活動を行っている方々の生き方や思いにも焦点を当ててきました。そこから「三方よし（自分よし、相手よし、地域よし）」を学んだようにも思います。

前回は、美浜町の小学生が児童の目線で地域の価値や課題を考え、自分たちにできることを活動として行ってきた実践を聞きました。それが中学校、高校の探究学習へとつながり、そして、子どもたちの思いを支援し、共に歩もうとする輪が地域や行政へと広がっていく様子が語られました。このような「世代や立場を超えたつながりの広がり」が、どのように実現してきたのか、その継続的で発展的な過程を知ること、地域の中でのコミュニティの新しい価値を共有しました。また、これからは地域の方々だけでなく、学校や行政も地域コミュニティの構成員の1つだということにも気づかせてくれました。

今回のゲスト

4月25日の新聞では、福井県内の8つの自治体が将来的に「消滅可能性がある」と人口戦略会議が伝えていました。このような状況の中で、地域の文化や伝統、つながりを大事に

するコミュニティはどうすれば持続可能になるのでしょうか。

今回は、以前、福井の学生まちづくり班の高校生プレーヤーとして若者の視点から**街の活性化を図る取り組みを**実践しておられた大学生、また、仕事を持ちながらも地域の一住民として地区の**婦人会活動や自主防災活動**などに**長年、仲間とともに関わってこられた方**から、それぞれの活動への思いを伺います。そして、**参加者みなさん一人一人もゲスト**として、私たち一人一人にとってのコミュニティの意義を再考できたらと考えています。

参加者一人一人が、自らの活動を通して感じるコミュニティに対する思いを語り合う中で新たな価値を見出してみませんか。このような場で、人々が集い、課題を共有し、対話を重ねることでの気づきが明日からの力になっていくものと考えます。

15：00～15：10 趣旨説明 水野幸郎

15：10～15：40 ゲストからの話題提供 コーディネーター：大橋巖

15：40～16：10 小グループでの話し合い

16：10～16：20 休憩（チャットタイム）

16：20～16：50 全体共有 全体ファシリテーター：富永良史

16：50～17：20 小グループでの話し合い

17：20～17：40 全体共有と振り返り